

大野ダムの更なる事前放流に係る実証実験の実施について

令和元年10月23日
京都府建設交通部河川課
大野ダム総合管理事務所

大野ダムでは、台風等による大雨に備え、予め貯水位を下げて洪水調節容量を増大させ、異常洪水時防災操作（緊急放流）^(*)への移行リスクを低減、又は遅延させることを目的とした事前放流を実施しています。

この度、堆砂容量を有効活用した更なる事前放流に取り組むこととしており、実証実験を行いながら段階的に事前放流目標水位を下げることをとしています。

更なる事前放流による目標水位は、最終的に最低水位である155mから150mまで5m下げることとしていますが、まずは、令和元年5月23日に水位を154mまで1m下げ、管理施設等への影響を確認する実証実験を実施したところです。

今回引き続き、水位を153mまで2m下げる実証実験を行いますのでお知らせします。

- 1 日時 令和元年10月28日（月）午前8時から午後5時まで
（予備日 令和元年10月31日（木）午前8時から午後5時まで）

2 目的

- ・ダム管理施設（ダム管理用制御処理設備、除塵フロートなど）への影響の確認
- ・貯水池及びダムからの放流水の水質（濁り）への影響の確認

3 実験概要

- 大野ダムからゲート放流し、貯水位を153mまで下げます。
- 最大放流量は90m³/秒までとします。
- 放流前にサイレンの吹鳴及び下流河川の巡視を行い、安全を確保します。
- 降雨により流入量が多い場合（30m³/秒程度）は、実験を中止します。

4 問い合わせ先

○京都府河川課総合治水担当 電話 075-414-5288

○京都府大野ダム総合管理事務所 電話 0771-75-0143

※前回の実験結果や中止等の情報については、京都府ホームページにてご確認ください。
<http://www.pref.kyoto.jp/dam/oono/index.html>

(*) 異常洪水時防災操作（緊急放流）

大きな洪水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じることにより、放流量を徐々に増加させ、流入量と同じ流量を放流する操作

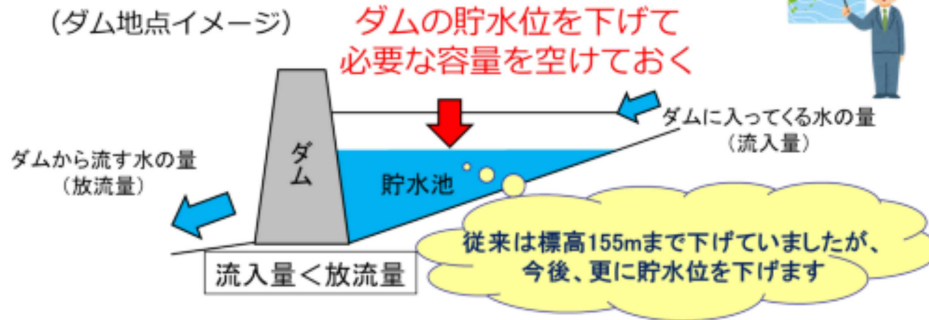
（裏面あり）



【事前放流イメージ】

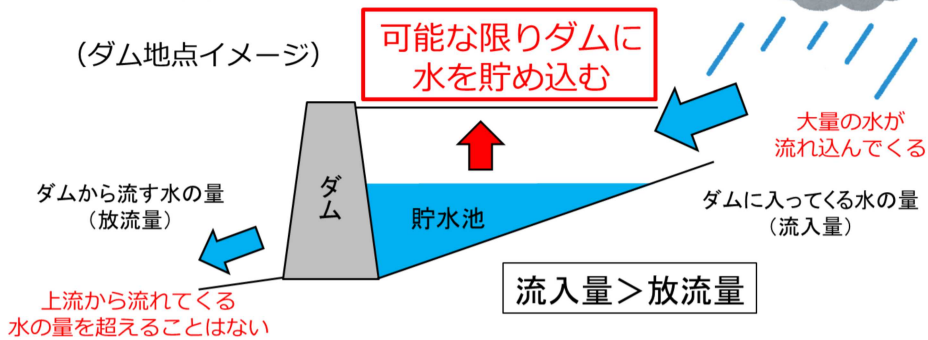
事前放流

☆大雨が予測されたら



防災操作(洪水調節)

大雨が降り出したら



異常洪水時防災操作(緊急放流)

計画を超える洪水の場合！！

